

# 第 53 回東・東南アジア 地球科学計画調整委員会 (CCOP) 年次総会参加報告

山岡香子<sup>1)</sup>・内田利弘<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

CCOP (Coordinating Committee for Geoscience Programmes in East and Southeast Asia, 東・東南アジア地球科学計画調整委員会) は、東・東南アジア地域の経済発展と生活レベル向上を目指し、地球科学分野の研究プロジェクトやワークショップの推進・調整を行う政府間機関です。1966年に設立され、現在は14の加盟国、14の協力国及び15の協力機関からの財政的、技術的支援により運営されています。日本は設立当時からの加盟国であり、地質調査総合センター(GSJ)が中心となり、各種プロジェクトに対する資金協力や専門家の派遣などを通じて、CCOPに大きく貢献しています。年次総会は加盟国の持ち回りで開催されており、2017年(第53回)総会は10月15-19日にフィリピン・セブ市で開催されました。引き続き10月20-21日に、同国ボホール州で第69回管理理事会が開催され、CCOP運営等に係る各種審議が行われました。

## 2. 第53回年次総会の開催概要

総会の本会議は10月16-18日に、セブ市のWaterfront



写真1 総会会場の様子。

Hotelにて開催され、併せて各種関連会議が行われました(写真1)。10月19日に予定されていたボホール島の地質巡検は、台風接近による天候悪化のため、残念ながら催行中止となりました。日程の概要は以下の通りです。

- 10月15日 鉱山環境保全優良事例集出版プロジェクト会議、財務委員会、総会代表者会合
- 10月16日 開会式、CCOP事務局活動報告、加盟国活動報告、ウェルカムディナー
- 10月17日 協力国・協力機関活動報告、技術セッション、CCOP地質情報総合共有(GSi)プロジェクト会議、CCOP-ASEANシームレス地質図プロジェクト会議
- 10月18日 技術セッション、東アジア磁気異常図改訂(MAMEA)プロジェクト及び物理探査データ総合処理(IGDP-II)プロジェクト合同会議、CCOP-IUGS(国際地質科学連合)ジオハザードタスクフォース共催セミナー、フェアウェルディナー

配付資料によると、参加者数は179名で、内訳は以下の通りでした(写真2, 3)。日本からは15名、GSJからは牧野雅彦総合センター長補佐など11名が参加しました(写真4)。

- ・加盟国：カンボジア(3名)、中国(15名)、インドネシア(10名)、日本(15名)、韓国(13名)、ラオス(2名)、マレーシア(2名)、ミャンマー(1名)、パプアニューギニア(1名)、フィリピン(77名)、タイ(14名)、ベトナム(1名)。加盟国のうち、シンガポールと東ティモールは不参加。
- ・協力国：カナダ(1名)、デンマーク(1名)、フィンランド(1名)、ドイツ(2名)、英国(1名)、米国(1名)
- ・協力機関：UNESCO (United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization, タイ, 1名)、UKM (Universiti Kebangsaan Malaysia, マレーシア, 1名)

1) 産総研 地質調査総合センター研究戦略部

キーワード：CCOP, 年次総会, 国際協力, 東・東南アジア, 地球科学



写真 2 総会参加者の全体写真。



写真 3 総会の各国代表。



写真 4 GSJからの参加者。

- ・名誉顧問：4名
- ・オブザーバー：オランダ1名，モンゴル1名，ECF (Energy China Forum, 中国, 2名)
- ・CCOP事務局：8名

### 3. 年次総会の主要イベント

#### (1) 開会式

開会式では，フィリピン環境資源省鉱山地球科学局長代理 Wilfredo G. Moncano 氏 (フィリピン CCOP 代表) とセ

ブ州災害対策管理局長 Baltazar Tribulano 氏による歓迎の挨拶があり，続いて CCOP アドバイザリーグループ副委員長 Ioannis Abatzis 氏 (デンマーク CCOP 代表，デンマーク地質調査所) と CCOP 管理理事会副議長 Shahar Effendi Abdullah Azizi 氏 (マレーシア CCOP 代表，マレーシア鉱物地球科学局長) の挨拶がありました。続いて，フィリピン環境資源省長官 Roy A. Cimatu 氏による開会宣言が行われました。

#### (2) 活動報告

本会議の議事では，始めに CCOP 事務局から活動報告



がありました。まず、CCOP-KIGAM(韓国地質資源研究院)非在来型石油・天然ガス資源プロジェクトについて、プロジェクトコーディネーターのSimplicio Caluyong氏により進捗報告がなされ、フェーズ1(2015-2017年)でまとめられた各国のシェール堆積盆データの分布図と閲覧ソフトが参加者に配付されました。また、Adichat Surinkum事務局長により、CCOPの2016年から2017年上半期の活動報告及び財務報告がなされました。

次に、加盟国の過去1年間の活動報告がありました。カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、タイ、ベトナムの順で、各国で取り組んでいる資源や地質調査、CCOPプロジェクトに関連する活動が報告されました。カンボジア、ラオス、パプアニューギニアの発表では、地質・地化学等の調査において中国から大きな支援を受けていることが紹介されました。日本からは山岡が、日本の地球科学関連の研究組織、GSJの組織体制、GSJやJOGMEC(独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構)、JAMSTEC(国立研究開発法人海洋研究開発機構)の2017年度のプレス発表を紹介しました(写真5)。特にプレス発表の内容は参加者の関心を引いたようで、海陸シームレス地質図や海底熱水鉱床の開発計画などについて、最も多くの質問を受けました。

本会議2日目は、協力国と協力機関による活動報告として、カナダ、デンマーク、ドイツ、フィンランド、英国、米国、UKMが発表を行いました。英国、カナダ、ドイツなどの報告では、2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs(Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標)の17テーマに即してプロジェクト立案を行っていることが紹介され、CCOPでもSDGsを念頭に置いた活動計画が必要とのコメントがありました。続いて、Adichat Surinkum事務局長により、CCOPの2018年の活動計画について紹介があり、KIGAMのグローバル協力部門長Young Joo Lee氏により、2018年の年次総会について紹介がありました。

### (3) 技術セッション

本会議2日目の午後から3日目にかけて、技術セッションが開催されました。今回の技術セッションのテーマは「環境保全における地球科学の役割」で、3つの会場を使って講演が行われました(写真6)。口頭発表は44件で、以下の5つのサブセッションで行われました。そのほか数件のポスター発表がありました。

- セッション1: 鉱物・エネルギー資源開発と環境保護(14件)
- セッション2: 地質災害リスクの軽減(16件)



写真5 日本の活動報告。



写真6 技術セッションの会場。

セッション3: 地球科学情報マネジメント(4件)

セッション4: 地下水資源開発と環境保護(5件)

セッション5: 地質遺産(4件)

基調講演は、ドイツ地質調査所(BGR)所長Ralph Martin Friedrich Watzel氏が、「鉱業セクターにおける持続可能性：グローバルな課題への地球科学の貢献」というタイトルで、講演を行いました。日本からの講演は9件で、全て口頭発表で行われました(写真7)。

### (4) ディナー

本会議初日には、セブ市内のレストランにてウェルカムディナーが開催されました。フィリピンの郷土料理が振る舞われ、豪華な衣装を身につけたダンサーにより伝統的な歌やダンスが披露されました。2日目は、韓国の釜山市長とKIGAM院長の主催によるディナーが開催され、来年の年次総会が開催される釜山市の紹介がありました。最終日には、ホテル内のレストランにて、フェアウェルディナーが開催されました。恒例の各国の余興により、会場は大いに盛り上がりました。日本も練習の成果を存分に発揮し、会場を沸かせました。



写真 7 技術セッションでの牧野総合センター長補佐による講演。

#### (5) 閉会式

最後に、各国で確認しながら総会の議事録が作成され、閉会となりました。

#### 4. 第 69 回管理理事会

管理理事会は、10月20-21日に、ボホール州南端パングラオ島の Bellevue Hotel にて、加盟国 12ヶ国(カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、タイ、ベトナム)の代表 48名、名誉顧問 2名、CCOP 事務局 8名が出席して開催されました(写真 8)。日本からは、牧野氏・宝田晋治氏(活断層・火山研究部門)・内田の 3名が出席しました。開会式では、ボホール州知事 Edgar Chatto 氏の歓迎挨拶と、フィリピン環境資源省鉱山地球科学局長代理 Wilfredo G. Moncano 氏の挨拶があり、CCOP 管理理事会副議長 Shahar Effendi Abdullah Azizi 氏が開会宣言を行いました。会議の議長は、Azizi 氏が務めました。

会議では、CCOP-KIGAM 非在来型石油・天然ガス資源プロジェクト報告、2017 年上半期の CCOP 活動報告、2018 年活動計画案、財務委員会報告、2018 年予算案、今後の総会及び管理理事会の開催地、技術セッションの運営方針の変更、2018-2019 年の管理理事会議長・副議長の選出、次期事務局長(2019 年 4 月-2022 年 3 月)の選出スケジュール、拠出金の各国の増額検討状況、名誉顧問の推薦の順に、審議が進められました。

2018-2019 年の管理理事会の議長には Shahar Effendi Abdullah Azizi 氏が、副議長には Wilfredo G. Moncano 氏が選出されました。加盟国拠出金については、前回の管理理事会(2017 年 3 月、ミャンマー)で承認された 3 つの

グループでの検討状況が紹介され、今回、拠出金の増額を表明した加盟国はありませんでした。名誉顧問の推薦では、日本が推薦した佃 栄吉氏(産総研特別顧問)が承認されました。次回の第 70 回管理理事会は、2018 年 3 月 14-16 日にラオス・ビエンチャンで、2018 年の第 54 回 CCOP 総会・第 71 回管理理事会は、2018 年 10 月 28 日-11 月 3 日に韓国・釜山で開催される予定です。

#### 5. 日本が主導する進行中の CCOP プロジェクト

会議期間中は、CCOP プロジェクトに関する多くの併設会議が開催されました。ここでは、現在 CCOP で進行中の、日本が提案・主導しているプロジェクトについてご紹介します。

##### ・地下水プロジェクト (2005 年-)

地下水プロジェクトでは、自然災害対策や適切な水資源管理を目的とし、地下水環境図の作成及び地下水データベースの構築を進めています。地下水プロジェクトレポートは、GSJ 出版物として毎年発行されています。フェーズ 1, 2 が終了し、2015 年からフェーズ 3 が開始しました。2018 年 3 月には、カンボジア・シェムリアップにてプロジェクト会議が開催される予定です。

##### ・地質情報総合共有 (GSI) プロジェクト (2015-2020 年)

GSI プロジェクトは、各国で出版された様々な地質情報を、国際標準形式でウェブ公開し、共有することを目的としています。本総会では、担当者である Joel Bandibas 氏(活断層・火山研究部門)が、プロジェクトの進捗状況及び地質情報アプリケーションのための SDI(Spatial Data Infrastructure, 空間データ基盤)について紹介しました。また併設会議では、各国が多様な地質データのデジタル化を進めていることが報告されました。2016 年から毎年、国際ワークショップが開催されており、2018 年の第 3 回国際ワークショップで CCOP 総合ポータルサイトとテーマ毎のポータルサイト群の正式公開を目指しています。

##### ・デルタにおける統合的地質アセスメント (DelSEA) プロジェクト (2004 年-)

DelSEA プロジェクトは、東アジアから東南アジアのデルタ地域における沖積層層序、シーケンス層序、近年の環境変化に対応した沿岸域の問題などを対象にした共同研究や人材育成を目的としています。フェーズ 1, 2 が終了し、2015 年からフェーズ 3 が開始しました。

##### ・G-EVER 地質災害図プロジェクト (2015-2018 年)

G-EVER は、2012 年から開始したアジア太平洋地域の大规模地震・火山噴火リスクマネジメントを目的とする





写真8 管理理事会出席者の全体写真.

活動です。G-EVER 地質災害図プロジェクトは、GSi プロジェクトと連動して進められています。本総会では、担当者である宝田氏が、アジア太平洋地域地震火山災害図プロジェクトと G-EVER 火山災害予測支援システムについて紹介しました。

・ **CCOP-ASEAN シームレス地質図プロジェクト (2014-2017 年)**

CCOP-ASEAN シームレス地質図プロジェクトは、ASEAN 諸国での地質図のシームレス化を目指しています。本総会では、担当者である高橋 浩氏(地質情報研究部門)が、プロジェクトの概要と進捗状況について紹介しました。また併設会議では、日本が 2017 年 9-10 月にラオスで行った野外調査研修について報告しました。

・ **東アジア磁気異常図改訂 (MAMEA) プロジェクト (2017 年 -)**

2017 年から始まった MAMEA プロジェクトは、2002 年に CD-ROM で出版された「400 万分の 1 東アジア磁気異常図」を改訂することを目的としています。中国が主導する物理探査データ総合処理 (IGDP-II) プロジェクトでの重力データ編集の活動と協力しながら進めることとなり、合同会議では担当者である石原丈実氏(地質情報研究部門)が、MAMEA プロジェクトの紹介を行いました。

**6. おわりに**

今回は、開催国であるフィリピンから最も多くの参加がありました。日本の大学院で博士号を取得された方が多かったのが印象に残りました。日本で学んだ方々が、現在は母国の第一線で活躍されていることを嬉しく感じ、日本が行ってきた国際貢献の成果を実感しました。一方で、CCOP 加盟国からの活動報告では、近年は中国や韓国から大きな支援を受けていることが紹介されていました。とかく自国の経済成長ばかりが目立がちな昨今の風潮ではありますが、持続可能な社会を地球規模で実現するためには、国際的な協力が欠かせないことは明らかです。そして、そのために地球科学は重要な役割を果たすことができる学問であることを、今回の CCOP 総会に参加し、改めて感じることができました。今後も、GSJ は地質調査のナショナルセンターとして、CCOP 加盟国への支援活動を積極的に展開し、東・東南アジア地域における日本のプレゼンスの向上に貢献することが期待されます。

---

YAMAOKA Kyoko and UCHIDA Toshihiro (2018) Report on the 53rd CCOP Annual Session.

---

(受付:2017年11月16日)